

～日本は、再び戦争に向かうのか！今、伝えなければいけない戦争～

「水…みず、飲ませて…」

広島で被爆した女学生「朝ちゃん」を演じ続ける堀 絢子さん

2017 年 5 月 27・28 日に、チョコ募金を応援して下さっているブーク人形劇場（東京都渋谷区）で俳優・声優の堀 絢子さん主演の一人芝居「朝ちゃん」が上演され、同時に特別展「イラク・いのちの花」として JIM-NET が所蔵するイラクの子どもたちの絵が劇場内に展示されました。

広島で被爆した女学生が主人公の「朝ちゃん」は、同じように戦争と放射能の犠牲となったイラクの子どもたちと重なります。「朝ちゃん」は、今回の上演で通算 256 回目を迎えました。「反戦」とかけて「半千」、500 回上演を目指すその思いを、語っていただきました。



photo by スタジオデュオ堀慶子事務所

◆父の被爆死

私は 4 人兄弟の 2 番目です。父の故郷は山口で、1944 年の年末に中国から引き上げてきて、美祢市で診療所を借りて開業したんです。あつというまに 45 年 6 月に軍隊（広島陸軍第五師団）にとられて、広島が母の故郷だから、ああ広島でよかったな、と思ったらしいんです。

そうしたら、8 月 6 日朝の点呼のときだったんです。ボッカーンと。父は被爆したあと、三次までトラックで運ばれました（広島市から約 80km）。三次にいたことは、父がはがきで知らせたんです。よれよれボロボロのはがきで「ここにいる」って。着いたのは 2 週間後でした。それで母はすっ飛んでいって。

堀 絢子さんプロフィール

ほり・じゅんこ：声優・舞台女優。1942 年旧満州・奉天（今の瀋陽）生まれ。主な舞台出演作は帝劇ミュージカル「スカーレット」、文学座「にぎりえ」ほか。声の出演ではアニメ「新オバケの Q 太郎」の Q 太郎、「忍者ハットリくん」のハットリくん、「ムーミン」のミイなど有名作品多数。

出演作の NHK 人形劇「プリンプリン物語」が、38 年ぶりに 2017 年 7 月 5 日より NHK BS プレミアムで毎週水曜日 23 時～23 時半オンエア開始（堀さんの役は「カセイジン」）。

「朝ちゃん」ストーリー

1945 年 8 月 7 日、原爆投下翌朝の広島。15 歳の女学生・秋子が一人で焼け跡をさまよっているうち、顔がザクロのように割れて全身が焼けただれた級友の朝子と出会った。秋子は朝子の母と兄を連れてきて朝子と再会させるが、朝子は「母ちゃん…うちゃあ死にとうない…」と言いながら徐々に弱っていく。朝子をリヤカーに乗せて連れ帰る家族を見ながら、秋子は自分の家族のことを思う。秋子の姉は母に再会することなく、被爆した夜、命を落としていたのだった…。

原作は『広島之母たち』（山本真理子著・岩崎書店刊）。堀さんは秋子、朝子、朝子の母、兄、ナレーターの 5 役を演じる。

NEWS

～日本は、再び戦争に向かうのか！今、伝えなければいけない戦争～

「水…みず、飲ませて…」広島で被爆した女学生を演じ続ける堀 絢子さん 1

声を上げることを止めてはいけない 谷山博史（JIM-NET 理事／JVC 代表理事）3

NGO・市民団体共同声明：市民社会を抑圧する「共謀罪」法案に反対 3

【イラク現地報告】第 16 回 JIM-NET 会議開催 佐藤真紀（JIM-NET 事務局長）4

ラワとお母さんから学んだもの 齊藤亮平（JIM-NET アルビル事務所）5

【活動報告】クラスター爆弾への投融資禁止キャンペーンに参加 内海旬子（JIM-NET アドボカシー担当）6

【イベント】サッカーでイラク・シリアの平和を考える～ワールドカップ最終予選特別企画～ 藤縄朋子（聖心女子大学）7

鎌田代表のつぶやき「解放された子どもたちの社会復帰へ支援が必要」／JIM-NET 東京事務所 移転のお知らせ 8

三次中学校（今の三次高等学校）の体育館にたくさんの人が寝かされていて、顔もわからなくなっている中で、母はバートと走って行って見つけたんですよ。父は、どうしても一目会ってから、何か言ってから死にたいと思って、必死で待っていたらしいんです。「そんなにしゃべったら疲れるから、明日また聞きますから」と言っても、一気にしゃべって、それで8月21日、敗戦も知らずに亡くなったんです。41歳でした。母は、体育館に入る時に「終戦を迎えたって絶対に言うてはいけない」って言われたんです。がくつきちゃうでしょう、みんな。

ゆで卵が好きだからって一生懸命持って行ったんですけどね、もう喉なんか通るわけじゃないんですよ。父が亡くなってから、隣の人が「ゆで卵を分けてください」ってお金を出したんです。「とんでもない、差し上げます」と母は言ったようなんですけどね。どんなにか食べたかったんでしょう、その人も。

母は夏になるとよく泣いていました。美味しいものを飲ませたかった、食べさせたかったって。それが私はとてもつらかったですね。

◆「朝ちゃん」と出会う

父が亡くなった時と同じ歳になって、「ああ、父が生きていれば世のためになったのになあ」と思ったんです。原爆のことで、何かしなきゃいけないとずっと思っていたんですけど、『広島の人たち』に出会って「これをやらせてもらわなくちゃ」と思って出版社に問い合わせ、すぐ著者の山本真理子先生に電話したの。ちょうどハットリくんをやっているときだったので、「ハットリくんの声をやっている者です」と言って。そうしたら「どうぞやってください」って。それでやりだしたんです。

初演が1989年7月だったんです。一人芝居というか、一人語りというか。お金ないですから、一人でやればお金かからないでしょう？ 第一回の上演の時はね、姪（マネージャーの堀慶子さん）の息子が3歳だったんです。姪が膝にのせて見ていたら、ぐわつとしがみついてきたんですって。怖いものだから。そして終わってから「戦争なんか、しちゃいけないんだよね」って言ったっていうから、それだけ伝わっているなら大したもんだと思って。

◆伝えていく思い

この間のプークでの上演のときも、小学校2年生の女の子が、最前列に座っていました。その子が本当にしっかりまじめに見て



佐藤真紀 JIM-NET 事務局長（左）と堀さん。佐藤事務局長は上演前のトークで、イラクのがんの子どもたちについて報告しました。

たんですよ。終わってから私と握手してくれて、すごく真剣な顔をして「やっていいことと良くないことというのが、非常によくわかった」と言ってくれました。広島でも何度も上演しました。原爆のことを全然知らない子たちがね、「これは私たちが受け継いでいかなきゃいけないんだ」と感じるんですよ。すごいですね。

それから、上演の手伝いに来てくれた若い女性が「今日来てよかった。自分は死にたいとしか思っていなかったんだけど、死にたいと思うことはやめます。これから真剣に生きていきます」って。嬉しかったですね。「朝ちゃん」を始めたころですよ。

「死にたくないのに死なされた人の分も、一生懸命代わりに生きてあげようと思ってください。それが私たちの生きている恩返しみたいなもので、いただいた命のお返しということ、皆さん考えてください」と、私は言っているんです。

◆最近の日本の政治に関して

共謀罪、あんなもの押し通しちゃうんだから、とんでもない政府ですよ。反対もへったくれもあつたもんじゃないですよ。どうしてもっていう強引さだけでね、政治をどう思っているのか全然わかりません。いや困った人が続くもんだなと、あきれはてて見てます。民主主義はもうでたらめよ。ちゃんと思想のある人に、立ってほしいですね。

（取材・芦澤礼子：2017年6月25日）

★「朝ちゃん」＋「イラク・いのちの花」を企画して

小原美紗（プーク人形劇場）

プーク人形劇場平和企画「朝ちゃん」は、今年で5年目、通算12回。500回を目指す堀絢子さんの思いに共感し、その命を削るような、祈るような体当たりの舞台を、一人でも多くの方に見ていただけたら…と続けてきました。

「戦後」という言い方を私たちはしています。でも、イラクの子どもたちの絵に秘められたストーリーに、世界はまだ「戦争の渦中」だという事実を改めて突きつけられ愕然としました。

堀さんとJIM-NETとのコラボレーションで、忘れてはいけない過去の戦争と、目をそらしてはいけない今の戦争。その両面から平和について考える時間となりました。

本当にありがとうございました。



劇場内に展示されたイラクの子どもたちの絵

「共謀罪法」が成立しました。NGO などがこの法律の恐ろしさに警鐘を鳴らし続けていた矢先でした。この法律は政府の政策に異議を唱える団体を広く捜査と処罰の対象にできるもので、自由な市民活動は今後大きな制約を受けるでしょう。

すでにこの法律に反対する NGO や NPO への圧力・介入が各地で起こっており、NGO や NPO の萎縮も始まっています。今世界各地で市民社会への暴力的な抑圧が起こっています。それはなぜか。NGO などの市民社会組織は、社会の矛盾と不公正の告発者だからです。世界中で不公正が横行し、周辺化された人々の不満が高まっていることの証左です。

萎縮してはいけません。私たちが声を上げなければ、地球を次の世代に残すことはできないのです。

※ JIM-NET を含む NGO・市民団体が下記共同声明を出しました。

2017 年 5 月 29 日 共同声明

市民社会を抑圧する「共謀罪」法案に反対

私たちは、環境・開発・人権・平和などの分野で活動してきた NGO・市民団体として、いわゆる「共謀罪」法案（「テロ等準備罪」を新設する組織的犯罪処罰法の改正案）は、市民社会を抑圧するものとして強く反対します。

今国会で議論されている「共謀罪」法案は、277 の罪が対象となっています。対象法案には著作権の侵害や、開発事業に反対する座り込みや労働組合の活動などが対象になることが懸念される威力業務妨害罪他、森林法の保安林の区域内における森林窃盗、種苗法の育成者権等の侵害なども含まれています。これらがテロの防止に関係があるのでしょうか？

そもそも政府は、国連越境組織犯罪防止条約を批准するためにテロ等準備罪が必要と説明していますが、この条約の対象はテロではない上、この法がないと条約に加盟できないわけではありません。テロ防止関連条約は既に締結していますし、国内法でもすでに、殺人や強盗、爆発物使用などの着手以前の段階の行為を処罰するさまざまな法律が整備されています。

法案では「組織的犯罪集団」が対象とされていますが、それを判断するのは捜査機関であり、一般市民も対象になり得ます。何が「組織的犯罪集団」か、定義されていないのです。団体の性質が変わった段階で、「組織的犯罪集団」とみなす、との答弁もなされています。捜査機関の拡大解釈を防ぐ準備はまったくなされていません。

私たちは、国内外で、「国家」の名のもとに、環境が破壊され、人権が侵害される事業に関して、警鐘をならし続けてきました。また、福島原子力発電所の事故を教訓として、国策である原子力発電所の海外輸出に反対している団体もあります。このような政策提言は、政府の政策を批判したということだけで、組織犯罪の準備とみなされ、監視される可能性も否定できません。法案が通れば、密告などによって捜査の対象となり、それら団体の社会的信用を落とすことが可能になり、政府機関に対する市民の活動は萎縮させられてしまいます。

私たちだけではありません。「ふるさとの自然を守りたい」――ただそれだけの想いで開発事業に反対し、座り込みをしている住民たちもいます。「共謀罪法」で合法化された警察権力による監視は、こうした人たちの行為をも、情報の恣意的な切り取りにより、「組織犯罪の準備」にみせかけることが可能です。何よりも、罪に問われることを恐れ、政策に批判することができなくなる、そういった萎縮効果が必ずあらわれるでしょう。

世界には、言論の自由が著しく制限されている国や、結社や集会の自由を制限する法を持つ国、軍事政権下にある国もあります。その状況下でも人権問題や環境問題の解決を訴える活動地域の人々は運動を続けており、時には刑法で処罰を受ける場合もあります。このように人権や環境のために立ち上がった市民を支援することが、海外の犯罪者との共謀とみなされ、処罰の対象とされる可能性もあるのです。

また、この法案が成立することで、準備行為を把握するために捜査機関がメールや電話を監視していくようになることも懸念されます。米国では、国家安全保障局（NSA）が一般の国民のメール、インターネット上の情報交換を監視していることが暴かれました。英国の政府通信本部（GCHQ）は、人権 NGO や調査報道を行うジャーナリストを国防上の脅威とみなし、メール等を監視していたことも報道されています。私たちのような市民団体だけでなく私たちと情報や意見を交換する市民・研究者・企業関係者・政府関係者まで監視対象となる可能性もあります。民主的な国家に不可欠な、言論や内心の自由が侵害される恐れがあります。

国際的にも懸念が表明されています。国連プライバシー権に関する特別報告者のジョセフ・ケナタッチ氏が、5 月 18 日、共謀罪法案はプライバシーや表現の自由を制約する恐れがあると懸念を示す書簡を安倍首相に送付し、国際人権法の規範および基準と法案との整合性に関しての情報や、法案の審議に関して公的な意見参加の機会について、市民社会の代表者が法案を検討し意見を述べる機会があるかどうか等、日本政府に情報提供を求めました。

しかし、22 日、菅官房長官は、これらの疑問に具体的にこたえることもなく、特別報告者があたかも個人の意見を表明したかのように記者会見で述べ、さらには見当違いの批判だと抗議した、とも発言しています。政府は国連の条約に加盟するための法整備を主張しているのに、国連が人権遵守のために任命した特別報告者の担う機能を見做すかのような矛盾した対応です。私たちは、この危険な法案が十分な審議も尽くされず、衆議院で強引に採決に持ち込まれたことに強い危機感を抱いています。市民社会を抑圧し、民主主義を窒息させる「共謀罪法案」の廃案を強く求めます。

（連名団体）6 月 16 日朝 10 時現在、18 か国 256 団体

（問い合わせ先）

メコン・ウォッチ 〒110-0016 東京都台東区台東 1-12-11 青木ビル 3 F Tel：03-3832-5034 Fax：03-3832-5039

国際環境 NGO FoE Japan 〒173-0037 東京都板橋区小茂根 1-21-9 Tel：03-6909-5983 Fax：03-6909-5986

第 16 回 JIM-NET 会議開催

佐藤真紀（JIM-NET 事務局長）

2017 年 3 月 2 日と 3 日の二日間に向け、イラクのアルビル市内のホテルで、毎年恒例の JIM-NET 会議が開催されました。

今回の会議では、下記の議題が話し合われました。

- ① 毎年行ってきた ALL（急性リンパ性白血病）の治療成績を発表、死亡原因を追究し、改善するための議論
- ② 輸血による感染症の現状と改善
- ③ CAR-T 細胞移植技術をイラクに導入するための議論
- ④ 心理社会的なアプローチ
- ⑤ 紛争下に置かれた病院の支援（モスルとダマスカスの実例）
- ⑥ 各病院個別に支援内容の見直し



日本からは、鎌田實 JIM-NET 代表理事と佐藤真紀事務局長、斉藤亮平（JIM-NET アルビル事務所駐在）、リカー医師（信州大学）、加藤丈典（JCF：日本チェルノブイリ連帯基金）、イラクのアルビル・バスラ・バグダッドからは医師とスタッフ約 30 名の参加があり、盛大な会議になりました。

◆各議題の報告

① ALL は、最もイラクで多い小児がんです。アルビル、バスラ、バグダッドの各病院からの報告によると、治療開始から 1 カ月間の死亡率は、4～5%程度に安定しています。2004 年に JIM-NET が支援を始めたころは、10%以上の子どもたちがこの期間に亡くなっていました。

患者数をみると、アルビルのナナカリ病院ではアンバール州からの患者が 13%、モスルからの患者が 15%となっており、全体の約 30%の患者が外部から来ていることになり、負担が増えています。加えて各病院は抗がん剤などの薬不足を抱えています。

② 今回特別に輸血による感染症のセッションを設けました。2014 年にアルビルにできた血液バンクセンターからフーネル医師に来ていただき、その活動を紹介。会議終了後には、血液バンクセンターを見学させていただき、予想以上に輸血のシステムが整っているように感じました。会議前に信州大学の中沢教授からは「CAR-T 細胞療法を導入する際には、輸血のシステムがきちんと整っている必要がある」とのアドバイスをいただいております、明るい情報が得られました。

③ CAR-T 細胞療法 に関しては、ナナカリ病院のサーミー院長は「イラクでできたら素晴らしいと思います。ただし、新しい技術を導入することに関しては、保健省の許可があるので、まずは、計画書を作って許可をとることが必要です」と慎重でした。それでも、ドホーク大学での遺伝子解析の研究や、リカー医師の信州大学での次世代シーケンサーを用いた研究の発表などは興味深く医師たちは関心を持って聞いていました。今回、リカー医師が、

会議に参加している医師が医学雑誌などに発表した論文を集めたところ 20 篇にもなり、コピーして配りました。

毎年行っている JIM-NET 会議のアカデミックな側面も近年重要になってきています。

* 「CAR-T 細胞療法」とは？

免疫細胞ががんを攻撃できるように人工的に改変してしまう治療法。免疫細胞(T細胞)が体内にある異物(=敵)を異物として認識する印を「抗原」と呼ぶ。抗原を認識できたら、T細胞はその抗原を目掛けて特異的に攻撃する。ところが、がん細胞は色々なシグナルを出して、T細胞ががん細胞を異物と認識するプロセスを邪魔することができ、T細胞の攻撃態勢が整わないようにする。そこで、T細胞を体外に取り出して、がん細胞の表面にある印(抗原)を認識できる受容体をT細胞の表面に人工的に発現させ、その“探知機付き”のT細胞を大量に増殖させてから体内に戻すと、体内でそのT細胞がさらに増殖した上で、標的であるがん細胞に対し攻撃を加える。この治療法が成功すれば、骨髄移植よりも安価に白血病を治療できると考えられており、イラクに導入することを検討中。

④ 心理社会的アプローチは、JIM-NET の得意とするところ。JIM-NET のスタッフ、イブラヒムとアブサイドの活動報告の後、1 月から始めた JIM-NET ハウス(小児がん患者の包括的支援施設)の活動報告が新しいスタッフからありました。これは、遠方患者、特にモスルからの避難民などの家族が宿泊する場所と、ソーシャルワーカーがよろず相談に乗る施設です。ソーシャルワーカーをクルド地区 3 病院に派遣している地元の NGO、クルディスタン・セーブ・ザ・チルドレンからも報告がありました。

⑤ 紛争下に置かれた病院の支援については、2017 年 1 月に「イスラム国」(IS)の支配から解放されたばかりのモスルにあるイブンアシール病院からモハメッド・アリ医師を迎え、報告をしていただきました。

2016年12月29日に連合軍から空爆を受け、1月になってイラク軍が病院を完全に解放すると、ISは火を放って逃亡。病院は丸焦げになってしまい、ひどい状況です。医師やスタッフが懸命に復旧作業にあたっているとのことでした。この病院は、かつてリカー医師も働いていました。

ISはいなくなりました。「一日も早く病院が再開されるように、JCFとJIM-NETが協力して支援を行う」と、鎌田代表が表明しました。

その後、JIM-NETでは緊急支援を呼びかけ、イブンアシール病院へ約150万円分の医薬品を届けました。今後も支援を続けていきます。

⑥各病院からの支援要請について、医薬品不足は各病院とも深刻

です。各病院への予算を少しずつ削ってモスルの支援に回したいところですが、そうもいかず、やはり寄付金などを多めに集めるしかないという結論に達しました。

◆JIM-NET 会議がつなぐ「絆」

会議を重ねるたびに、参加者たちの友情というか絆が強くなっていく気がします。16回目を迎えたJIM-NET会議、支援調整だけでなく、学会発表的な要素を加えて、医師たちも発表を楽しみにしているようです。

しかしそれ以上に、毎回顔を合わせて安否を確認し合うというなくてはならない集まりになっています。

イラク現地報告

ラワとお母さんから学んだもの

齊藤亮平（JIM-NET アルビル事務所）

イラク・モスルでは「イスラム国」（IS）とイラク軍の戦闘が最終局面を迎え、モスル陥落間近、との報道が駆け巡っています。モスルを象徴する「ヌーリーモスク」が破壊され、ISが企てた市民による人間の盾により最後の掃討作戦に出れないイラク軍の苦戦も伝えられる中、今日もモスルの難民キャンプからがん患者を乗せた救急車がナナカリ病院にやってきます。

2017年2月にハーゼル難民キャンプから運ばれてきた少女、ラワ（11歳）もその中の一人でした。

ラワ一家はタッルアフアルというモスル郊外の村に住んでいました。お父さんがトマトやきゅうりを栽培し、それを町で売って生計を立てていましたが、とても貧しい生活だったそうです。そして不運なことに、お父さんはラワが1歳の時に、トマトを売りに行く途中で交通事故に遭い、下半身不随となってしまいました。その後はお母さんがその仕事を引き継ぎ、5人の子どもを養っていたと言います。また以前イタリアのNGOがお父さんの手術を2度ヨルダンで実施するという支援を約束していたのですが、2回目の手術は住んでいた地域がISの支配下におかれ、実施されることなく今なお下半身が不自由なままです。

そんな中、ラワの病気が発覚したのは2年半ほど前のことでした。ちょうど一家が住む村がISの支配下になった頃と同じタイミングだったそうです。急激に痩せはじめたラワを心配したお



ハーゼル難民キャンプ

母さんが病院に連れていくと悪性リンパ腫の一種、ホジキンリンパ腫と分かり、すぐに治療が必要だと告げられました。しかしラワの住んでいた地域では、十分な治療を受けられませんでした。お母さんはそんな中でも薬代を稼ぐため、必死に働きましたが十分な薬を手に入れることはできなかったと言います。

今年の初め、IS支配地域から解放されたラワ一家はイラク軍の助けにより難民キャンプに連れて来られ、ようやくアルビル（モスルから約80キロ）のナナカリ病院に来ることができました。

抗がん剤治療が始まったラワですが、もちろん抗がん剤を買うことができませんでした。担当医からの要請もあり、JIM-NETはラワに対して抗がん剤購入の支援やキャンプへの送迎支援を開始。定期的に抗がん剤治療にナナカリ病院に通い始めたラワでし





ナナカリ病院でのラワとお母さん 撮影：鈴木雄介(フォトグラファー)

たが、4月下旬あたりからみるみる痩せ、髪は抜け落ち、顔色も黄土色に変わっていききました。肺に感染症を起こしたのでしょうか、とても苦しそうにしていることが幾度もありました。5月に会った際は食べることもできず、飲み物もほとんど口にすることができない状態でしたが、それを支えるお母さんには「きっとよくなるわ。いつもありがとう」と、いつもの笑顔といつもの前向きな姿がありました。

ある時、お母さんがこんなことを話してくれました。

「夫と娘の看病で、他の子どもたちに寂しい思いをさせてるのがすごくつらいわ。もっとお母さんさんらしく、子どもたちの近くにいてあげたい。たまには子どもたちのわがままも聞いてあげたい。それができてなくて、子どもたちにいつもごめんねって心で謝ってるのよ」。ラワを看病し、キャンプに戻れば夫の看病と家事をこなすお母さんは自らが疲弊していることなど一言も口にせず、いつも家族を気遣っていました。

ラワの病状が改善しないまま迎えた6月初旬、定期的な抗がん

剤治療を終えて難民キャンプに戻る日、病室に入るとお母さんはいつもと違った様子でした。

「次の治療も…来られるかしら」と天を仰ぎ、「抗がん剤購入支援や車でキャンプまで送ってくれたり、それから無理なお願いまで聞いてくれて本当にありがとう。あなたたちには感謝してるわ。ありがとう」と言いながらお母さんの目からは涙がこぼれ落ち、何かを悟っていたかのようにもありました。

事実、主治医の先生も「残念ながらラワがもうナナカリ病院に戻ってくることはないだろう」とスタッフに告げていました。

ラワを車いすに乗せ、JIM-NETの車へと運び、難民キャンプへと戻ったラワとお母さん。そしてキャンプに到着した数時間後、ラワは息を引き取りました。

連絡を受けたスタッフたちは「ラワとお母さんに申し訳なく思う。何をすればよかったのだろうか。何かもっと違った支援があったらどうか」と自問していました。病気の進行には勝てず、亡くなったラワですが、ラワやお母さんに寄り添った数カ月でスタッフたちが学んだことも多かったと思います。いかに紛争が一般市民を苦しめ、いち早く治療を受けなければいけない子どもたちを苦しめているか。そして患者だけでなく、子どもを支える家族がどういう思いでいるか。そういう思いに寄り添い、丁寧にサポートしていく大切さを皆で学んだのではないのでしょうか。そのためにも、JIM-NETハウスやモーターを今後も充実させ、患者やその家族へのサポート体制を維持していかなければなりません。

またモスルからの患者だけではなく、ナナカリ病院ではシリア難民や地元の貧困患者も多く治療を受けています。お金がなくて薬が買えない、病院に来て居場所がない、そういう声を丁寧に拾い支援につなげていきたいと思います。

引き続きご支援、ご協力のほどよろしくお願い致します。

活動報告

クラスター爆弾への投融資禁止キャンペーンに参加

内海旬子（JIM-NET アドボカシー担当）

クラスター爆弾禁止条約で「使ってはいけない兵器」とされているにもかかわらず、同爆弾は今もシリア、イエメンで使用されている。落としたのはロシアかロシア軍の支援を受けるシリア軍だと予測されるが、いずれも使用を否定している。

クラスター爆弾は犠牲者の96%が民間人、その半数近くが子どもである。このような非人道的な兵器から人々を守るために作られた条約は、同爆弾の使用、製造、保有、移譲の禁止に加え、それらの行為を「援助する行為」も禁止している。「援助」には、クラスター爆弾を製造する企業への投融資が含まれる。

この投融資の状況がオランダのNGO「PAX」によって『クラスター爆弾 への世界の投資―共通する責任』（第8版）にまとめられた。そして、編集者が来日しての記者発表が2017年5月23日に東京で行われ、JIM-NETも協力した。

今回の報告書で明らかになったことは、クラスター爆弾製造企業への投融資がある金融機関の数が、条約加盟国中で最も多いのが日本だということである。

世界では166の金融機関が、延べ310億ドルをクラスター爆弾製造企業6社に投融資しており、取引の大きい企業には、日本の第一生命、三菱UFJフィナンシャル・グループ、三井住友フィナンシャルグループ、オリックスの4社が入っている。この4社以外の金融機関も取引がある。また、2017年4月の国会にて、年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）が米国の製造企業の株を2015年度末時点で192万株（約80億円）を保有していたことも明らかになっている。

私たちが銀行などの金融機関に託しているお金がクラスター爆弾の製造に使われたかもしれない。世界には、クラスター爆弾への投融資を禁止している国が10カ国、そのように解釈するという国が28カ国ある。クラスター爆弾禁止条約加盟国の日本がそのようになるためには、私たち一人ひとりが自分のお金を預ける金融機関の動きに注目する必要がある。それによって、クラスター爆弾の製造が止まり、犠牲をなくす流れを作り出すことができるのだから。

サッカーでイラク・シリアの平和を考える



～ワールドカップ最終予選特別企画～

藤縄朋子（聖心女子大学 国際交流学科 3 年 難民支援学生団体「SHRET」所属）

6月13日、イラク vs 日本戦、日本にとっては、大事な試合。その前哨戦として6月7日親善試合が組まれました。何と対戦相手は、シリアです！JIM-NET は、日本中が、ワールドカップ出場をかけ盛り上がるこの機会を利用して、対戦国であるシリアとイラクのことをもっと知ってもらおうと、イベントを企画しました。目的はズバリ、試合をTVで見、感動してもらうこと。決して「敵」で終るのではなく、そこから新しい一歩を踏み出してほしいということです。今回は聖心女子大学の難民支援学生団体「SHRET」(シュレット)の皆さんにご協力いただきました。

シュレット公式 HP : <http://shretofficial.wixsite.com/shret>

今回私たち聖心女子大学「SHRET」は JIM-NET とご縁があり、協力団体として6月3日（土）にイベントを行いました（会場：千駄ヶ谷区民会館）。

イベントでは「サッカーでイラク・シリアの平和を考える」というテーマで、前半では『それでも僕は帰る』という映画の上映をし、後半では JIM-NET の佐藤真紀事務局長と元シリア代表コーチの屋良充紀さんの対談を行いました。

【ゲスト：屋良充紀さん】

やら・みつし・神奈川県出身。

ブラジル・サンパウロ州リーグ「EC サントアンドレ」、「GE マウアエンセ」などでプレー。

その後、エクアドル、コロンビアでもプレーした経験を持つ。

2007 年 6 月 19 日より日本サッカー協会のアジア貢献事業でシリアで活動し、2008 年 1 月 15 日に開校した SFA フットボールアカデミーでヘッドコーチを務める。

シリア A 代表コーチも兼任し、2008 年のキリンチャレンジカップに帯同する。

横浜市内でサッカースクール（4 歳～ 15 歳）「エスコリーニャ・フットボール・クルービ」を開校し、現在も活動中。JFA 公認 A 級 U12 コーチ。



屋良さんは対談で次のように語りました。

「スポーツは平和の象徴。サッカーを通して、忘れ去られようとしているシリアの状況をわかってほしい。自分が住んでいたところが戦争になってしまうなんて信じられない。（シリアというと戦争のイメージを持たれているが）穏やかな人たちだった。彼らは、逃げるしかない状況。サッカーを通して戦争とか貧困とかに目を向けて、自分もそういった問題に取り組めればいいですが、一人では限られているから、まずは、多くの人に知ってもらうことです。」

このようなイベントでは通常お話を聞いて…という真面目なものが多いのですが、打ち合わせで「いつもお茶を出している」と聞いて、シリアスな問題であるからこそ穏やかな雰囲気、自分に身近な問題として捉える事が可能になると感じました。

映画は 19 歳の代表ゴールキーパーが民主化運動に参加してゆく様子を描いたものです。普通に生活していた彼が周囲の変化に応じて自らも銃を手にする姿がとても印象的でした。普段ニュースでしか伝えられない様子を実際に映像で見る事が出来てシリアの現在を再び考え直す良い機会となりました。

事前打ち合わせの際に JIM-NET の活動について実際に沢山お話をさせて頂いたのですが、それらのお話・そして今回のイベントを通して他の国の事でも同じ年代の子がやっている活動を見ると親近感が湧くと強く感じました。遠い国の話だからこそ、私たちが常に目指している“ジブンゴト”として問題を考えられる大切さを実感したと共に、実際にそのように考えられた時間になったと思います。



さて、試合の結果は？

6月7日、日本で行われたシリアとの親善試合は、1-1 の引き分け。

6月13日、イランで行われたイラクとの W 杯予選は、37℃を超える暑さで壮絶な試合になり、日本はけが人が続出。後半かなりへばった日本のミスを見逃さず、イラクが執念で追いつくというゲーム展開で 1-1 に。まれにみる泥臭いサッカーとなりました。

日本はオーストラリアとサウジアラビアの残り 2 試合厳しい試合が続きます。同日に行われたシリアと中国の試合ですが、こちらは、ロスタイムでシリアが追いつき 2-2 で引き分け。イラク、シリアとも頑張りました！

日本はワールドカップ出場なるか？



シリアの小児がんの子どもたちが作ったサカベコ。早く元気になりたいというメッセージが込められている。

サカベコ：会津の民芸品「赤べこ」にサッカーユニフォームのペイントをしたもの。

鎌田代表のつぶやき～解放された子どもたちの社会復帰へ支援が必要

イラクで「イスラム国」(IS)に拉致された5歳の少女が、3年ぶりに両親の元に戻った――。そんなニュースが今年6月9日、世界中に配信された。少女の名は、クリスティーナちゃん。母親のアイーダさんは、テレビのインタビューで、「娘が返ってきた日が、私の人生の最良の日です」と答えている。目の不自由な父親も、喜びの声を地元紙に述べている。

「あっ、あのお母さんだ」

2年半ほど前、アルビルの難民キャンプで、この家族に会っていた。

クリスティーナちゃんは戻ってきたが、イラク国内でISなどの武装組織に拉致されたと報告を受けている子どもの数は1,511人といわれている。この子たち全員の解放が課題である。

だが、無事に戻ってきたとしても、問題は多い。クリスティーナちゃんはクリスチャンの両親の顔を覚えていない。モスルでイラク方言のアラビア語で育てられた彼女は、両親が使うシリア方言のアラビア語を話せない。イスラム教を教え込まれている可能性もある。

もっとも心配なのは、愛情欠乏症候群である。乳幼児期に十分な愛情をもって育てられなかった子は、人とのかかわる上で大切な基本的信頼感を築くことができにくくなる。自分の存在を肯定的にとらえる自尊感情や、人への信頼感をもちにくくなると、心理面や社会性の面で、さまざまな問題が生じてくる可能性がある。

拉致から逃げてきた少年と、2年前に会った。ISに洗脳され、コーランを口ずさむようになっていた。ヤジディ教徒のコミュニティでは、大人も子どもも頭を抱えていた。子どもたちにとって、この数年間の戦乱は、一生にかかわる大切なものを奪ってしまっているのだ。



右端の黒いベールを被った女性はISに拉致されたが逃れ、家族と再会した。左端はJIM-NET現地スタッフ。

今回、クリスティーナちゃんの帰還といううれしい知らせに接した。だが、今後は第二、第三のクリスティーナちゃんとその家族をどう支えていくのか、大事な仕事が続いていると身の引き締まる思いがした。

小学館カルチャーライブ！

鎌田 實^{そんたく}「忖度バカ」はいらない！

8月23日(水) 19:00～20:30

会場：小学館 受講料：1,800円(税抜)

〒101-8001 東京都千代田区一ツ橋2-3-1

東京メトロ半蔵門線/都営新宿線/都営三田線「神保町」駅A8出口 直結



お申込みは「小学館カルチャーライブ！」ホームページから。
小学館カルチャーライブ！のご利用がはじめての方は、小学館IDの登録が必要です。新規ご利用登録から、小学館IDのアカウントを作成してください。
ホームページ <https://sho-cul.com/> お問い合わせもこちらから。
※電話でのお申込み・お問い合わせはできませんので、ご了承ください。

❖ JIM-NET 東京事務所 移転のお知らせ

この度、9年間お世話になった神田川沿いの事務所を離れることとなりました。事務所を開設した時は、とりあえず机だけ購入し、カタログハウスから本棚をいただき、パソコンやプリンター、食器などもスタッフが持ちよってスタートした事務所でしたが、13年の活動ですっかり事務所らしくなりました。残念ながらその一方で老朽化も激しく、雨漏りなどの問題から今回移転する運びとなりました。

最寄り駅は変わらず高田馬場駅ですが、駅を挟んだ反対側の閑静な住宅街です。

玄関には様々なJIM-NETグッズや子どもたちの絵を飾り、テーブルも置き、お客様とゆっくりお話しできるスペースを作りました。駅からも近くなりましたので、ぜひ遊びにいらしてください。

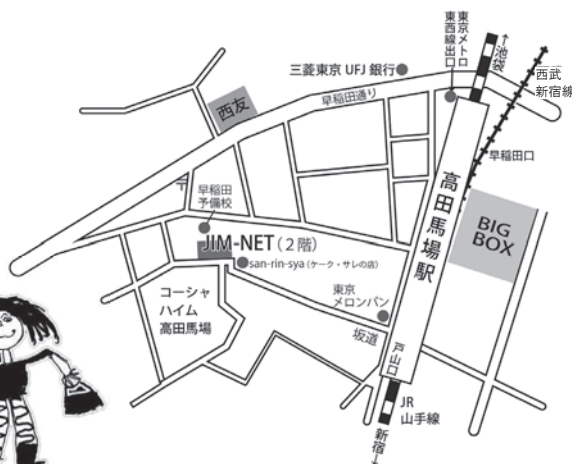
〒169-0075

東京都新宿区高田馬場4-4-11 内藤ビル2C(6月22日に移転しました)

TEL: 03-6228-0746(旧事務所と同じです)



JR山手線高田馬場駅「戸山口」より徒歩4分
西武新宿線高田馬場駅より徒歩10分
東京メトロ東西線1番出口より徒歩7分



特定非営利活動法人 日本イラク医療支援ネットワーク(JIM-NET) 電話 03-6228-0746 メール info-jim@jim-net.net URL <http://jim-net.org>

Facebook <https://www.facebook.com/JapanIraqMedicalNetwork> Twitter https://twitter.com/jim_net

郵便振替口座 00540-2-94945 加入者名 日本イラク医療ネット(募金・サポーター会費はこちらへお願いします)

★ぜひ今後ともJIM-NETをご支援ください！